

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月27日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2970800286
法人名	社会福祉法人 仁南会
事業所名	つぶら・すじゃく
所在地	奈良県御所市柏原721-1 (電話) 0745-64-3020

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内
訪問調査日	平成20年11月20日

## 【情報提供票より】(20年10月31日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	18	人
職員数	12 人	常勤 2人 非常勤 10人, 常勤換算 10.1人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨合金メッキ 造り		
	1階建ての 階 ~ 1階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	また、は1日当たり 900 円		

### (4) 利用者の概要(10月31日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	6名	要介護2	6名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 80.6歳	最低	60歳	最高	89歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	秋津鴻池病院
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR掖上駅の直ぐ横にグループホーム”つぶら・すじゃく”の2ユニットがあり、その奥に特別養護老人ホーム(さうす国見)(デイサービスセンター)等が併設されています。周囲は昔からの住民が多く住む民家が立ち並んでいます。ベテランの職員が、利用者一人ひとりの生活歴や思いを充分把握し、その人を丸ごと受け止めて支援されています。また、運営者は職員の研修を受ける機会を確保し働きながら学べるように取り組まれています。職員も向上心を持って利用者と共に支え合い生活されています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 夜間入浴は夜間2ユニットで1人の職員となり、事故防止の観点から、現行のままとなっていますが、入浴は利用者の習慣や希望に多様性があり、地域密着型サービスが利用者本位とされていることを踏まえ、夜間など利用者の希望にあわせて入浴出来るような支援の検討を期待します。また、職員は昼食のみ弁当を持参するように改善されていますが、今後は、さらに職員と利用者が毎食同じ物を食べられるよう検討される事が望まれます。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価に対する意義を理解し全職員が参加されて取り組まれています。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議では、グループホームからの近況報告だけではなく外部評価の課題点なども討議され、サービスの向上に活かされています。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法。運営への反映(関連項目:外部7,8) 玄関に意見箱が置かれており、家族の訪問時には積極的に意見や要望を聞きだすようにされています。苦情意見などはケア会議で検討される仕組みとなっています。運営推進委員会にも家族の代表者が参加されています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 外出の機会が少なく地域の方とのふれあいがホーム内にとどまっていますので、買い物、散歩、散策などを日課として日常的に地域の方と触れ合う機会を多くもたれる事が望まれます。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念をそのままホームの理念とされています。		ホームは地域密着型サービスに制度改正されましたので、地域生活の継続支援とホームの関係性強化等を謳った理念等具体的なイメージを持ってホーム独自の理念作りが望まれます。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所の中に理念を掲げ朝礼時に唱和する等して理念を共有し、日々の実践で活かすようにされています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者が地域で暮らし続けるための基盤づくりや、地域の一員としての取り組みは希薄と感じられます。		外出の機会が少ない事も有り地域とのふれあいがホーム内にとどまっていますので、買い物、散歩、散策などを日課として日常的に地域の方と触れ合う機会を多くもたれる事が望まれます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、全職員で話し合い自己評価に取り組まれてれています。また、改善に向けて具体案の検討や実践に繋げるための努力をされています。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、定期的開催し、行政・家族代表など幅広く出席されています。会議では、行事等の近況や外部評価等を報告し話し合い、サービスの向上に活かされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の担当者にホームの実情やサービスの取り組みなどを伝え、常に連携をとるようにされています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理は1ヵ月に1回明細書を送付し、暮らしぶりや健康状態は2ヵ月に1回家族通信で報告されている他、面会時にも伝えられています。状態に変化が見られる時には、必ず報告する事とされています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱が設置されており、面会時には積極的に要望や苦情を聞きだす取り組みがなされています。運営推進会議には家族代表が出席され、出された意見要望はケア会議で話し合われています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動を少なくし、利用者との馴染みの関係を作るため、各ユニットの職員を固定化されています。職員の異動があるときは引継ぎの期間を十分に取られています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体としての介護技術、精神科医による認知症研修会など、月1回研修会が開催され、ホームの職員も参加されています。会議の内容を全体会議で発表し全職員が共有できるよう取り組まれています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症研修会などの交流はありますが、日々のサービスや職員育成に役立つ実践的な交流の取り組みは希薄に感じられます。		他のグループホームの見学や交換研修などをされ、サービスの質の向上に取り組まれることが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人や家族が見学に来られたり、職員が自宅を訪問する等徐々に馴染めるようにされています。生活に馴染めるまでは会話を多く持ち家族の協力を得ながら安定的な生活が送れるよう支援されています。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者一人ひとりの生活歴を知り得意分野で力を発揮できるように会話や声かけを工夫し、利用者と職員が「共に過ごし、学び、支えあう」関係づくりに努められています。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>家族の訪問時には積極的に要望や意見を聞き、また、本人からの希望や思い、意向などは日々の関わりの中から言葉や表情からその真意を推し測ったり、それとなく確認し把握されています。</p>		
ほん					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族の意向・要望等を聞き、関係者とスタッフ全員で話し合い、それぞれの気づきや意見を反映させるように介護計画を作成されています。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の期間に応じて見直しされています。利用者の身体状況に変化があった時は、現状に即した見直しが行われています。</p>		<p>月に1回程度は安定されている方でも家族の意向や状況を確認し新鮮な目で見直す取り組みを期待します。また、見直しされた計画書は、見直した日付を記入し経過が分かりやすくなるよう作成される事が望まれます。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に応じて通院や送迎など柔軟に対応されています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望される医療機関に受診できるように支援され、受診後の情報交換もされています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については、関係者や家族、利用者との話し合いは持たれていません。		終末期や重度化した場合の方針をホーム全体で話し合い、具体的な方針を検討される事が望まれます。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることのないよう、朝礼時や申し送り時には「言葉かけ」や「対応」について確認されています。また、個人情報の取り扱いについては同意書を交わしプライバシー確保に努められています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の流れは決められていますが、その人のペースを大切に支援されています。趣味の教室や行事への参加等、その日の体調や希望に沿って支援されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台所と食堂がオープンとなっており、職員と利用者が同じテーブルを囲み楽しい雰囲気の中で食事をされています。調理、味見、配膳、後片付けなども職員と共にされています。		職員は昼食のみ弁当を持参されていますが、職員も利用者と同じ物を食べる事で、共に生活をしている実感を得て、より和やかな食事となりますので、職員と利用者が毎食同じ物を食べられるよう検討される事が望まれます。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	決められた曜日や時間帯の中で、本人のその日の体調や希望に沿って個別支援されています。		勤務体制等の克服すべき課題はありますが、入浴は利用者の習慣や希望に多様性がありますので、地域密着型サービスが利用者本位とされていることを踏まえ、夜間など利用者の希望にあわせて入浴出来るような支援の検討を期待します。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、日々の生活の中で一人ひとりの能力を把握され、活躍できる場面をつくり、見守りながら支援されています。楽しみごと個々の能力に合わせてカラオケ、トリミ体操、習字、編み物、などボランティアの協力を得て張りのある生活となるよう支援されています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	隔週ごとに買い物やドライブなどされています。		今後は、さらにサービスの質の向上を目指し、これまでの生活の継続、気分転換やストレスの発散、五感刺激の機会として、日常的にひとり一人の希望に沿って外出できるよう支援されることが望まれます。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	近隣の方にも連絡をしてもらえる関係を作り、職員の見守りを徹底し、日中玄関は施錠することなく、安全に配慮しながら利用者の自由な暮らしを支援されています。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を消防署の指導の下に地域の方も参加され年2回実施されています。ホーム内には火災報知機があり併設ホームに連絡できる体制となっています。夜間想定訓練もされています。食料品や飲料水、毛布なども備蓄されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量などの摂取状況は、パソコンでデータ管理し、職員が情報を共有されています。併設ホームの管理栄養士に献立についてのアドバイスを定期的に受け栄養バランスにも配慮されています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりとして落ち着いた雰囲気が全体から感じられ、廊下や玄関など随所に花が生けられています。玄関や廊下などにベンチが置かれ思い思いに過ごせる場所にも配慮されています。トイレ、浴室、廊下なども利用者が使いやすいよう工夫されています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	筆筒、机、椅子、ベッド、テレビなど使い慣れた物品が持ち込まれています。畳の和室と洋室とを用意されており、時計や写真、カレンダーなども置かれ居心地良く過ごせる居室となっています。		